

ウスコミミガイ *Laemodonta exaratooides* Kawabe

【選定理由】

本種は、内湾域の転石地の深く埋もれた石の下面が生息環境である。打ち上げられた貝殻が知多半島の4カ所で採集されているが(河合, 1999)、生息が確認されたのは蒲郡市西浦半島の先端部の転石地が初めてであった(木村, 2001)。その後の三河湾島嶼域等の調査で多くの生息地が追加されたが、いずれの生息地でも生息面積は小さく、個体数は少ない。絶滅の可能性が高い種であると評価された。



上段：蒲郡市西浦町，1999年7月2日，下段：西尾市吉良町梶島，2015年6月6日，木村昭一採集

【形態】

殻長約7 mm、殻は卵形で殻表は短い針毛のはえた殻皮で覆われる。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内の生息場所は蒲郡市の1カ所で初めて記録された(木村, 2001)。近年の調査で前島(早瀬・他, 2015b)、沖島(早瀬・他, 2015a)、梶島(早瀬・他, 2016)、佐久島(早瀬・木村, 2020)、河和(早瀬・木村, 2017)、日間賀島(早瀬・他, 2017)などで生息が確認された。前島、沖島以外では確認された個体数が非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、国内では本州東北地方以南～九州に分布する(木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

内湾からやや外洋にかけての潮上帯転石地の、深く埋もれた石の下面が生息環境である。元々愛知県には多い生息環境ではないが、伊良湖岬のように海岸の護岸工事によって転石地、特に潮上帯部分は陸地に近く破壊されやすい。

【保全上の留意点】

上述したような生息環境を破壊しないよう、不必要な護岸工事をしないことが重要である。

【引用文献】

- 早瀬善正・木村昭一・大貫貴清, 2015a. 沖島(三河湾)の転石地潮間帯の貝類相. かきつばた, (40): 23-30.  
早瀬善正・大貫貴清・吉川 尚・松永育之・社家間太郎, 2015b. 前島(三河湾)の転石地潮間帯の貝類相 - 特徴的な16種の記録. ちりぼたん, 45 (3): 105-122.  
早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・川瀬基弘・林 誠司・西 浩孝・守谷茂樹・石井健一郎・大貫貴清・岩田明久・仲田彰男, 2016. 梶島(三河湾)の潮間帯の貝類相. かきつばた, (41): 27-39.  
早瀬善正・木村昭一, 2020. 佐久島(三河湾)の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33-79.  
早瀬善正・木村昭一・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久, 2019. 日間賀島(三河湾)の潮間帯貝類相. かきつばた, (44): 1-15.  
河合秀高, 1999. 知多半島で得られたオカミミガイ類. かきつばた, (25): 12-13.  
木村昭一, 2001. 蒲郡市西浦半島転石地のオカミミガイ科貝類. かきつばた, (27): 20-21.  
木村昭一, 2012. ウスコミミガイ, p. 96.in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)